

刻む会 たより

No. 26

2003.6.19

長生炭鉱の“水非常”を

歴史に刻む会

代表 山口武信

宇部市常磐町一―一九

TEL 〇八二六(二二) 八〇〇三

旧長生炭鉱水没事故

六一周年を終えて

山内弘恵

「刻む会」が追悼式を行うようになって今年で一回目を迎えた。今回、初めて大雨に見舞われ、屋内での開催となった。

追悼式後の交流会のため、用意していた集会所は入りきれない人でいっぱいだった。その中で、厳かに追悼式が開催された。

司会の徐さんの開会の挨拶の後、参加者一同が黙祷

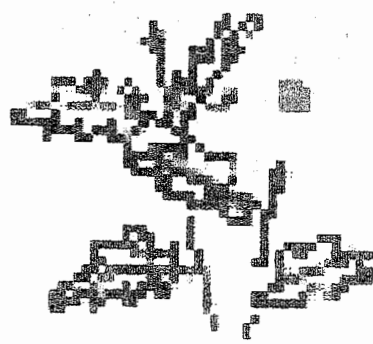
を捧げる。そして、山口会長の挨拶、遺族会会長の挨拶、碑文朗読、弔辞と続いた。いつもは海岸で波の音に消されがちな言葉も、屋内だけに届いたようだった。耳にも届いたようだった。そして、参加者一同で追悼歌を合唱し、遺族達のチェーサーが始まった。今回は、西光寺住職のはからいで、位牌をお借りして、位牌を前にチェーサーをしていただいた。いつもの遠目に眺めていた遺族達の姿が、今回は目の前にあったためか、遺族

達の悲しみが例年以上に伝わってきたように感じた。チェーサーの後、大雨の中、海岸で献花を行い、一連の追悼式が終了した。

終了後、同じ会場で、遺族を囲む「どい」を開催した。

最初に、飯塚在住の金春粉さんにお話をしていた。金さんは、事故当時の様子など、貴重な証言をいただいた。へ後に証言を載せています。

その後、お茶やお酒、お菓子などをつまみながら、三つのテーブルに分かれて



宇部市の^旧長生炭鉱事故

慰靈碑建立に支援を

韓国に要請 追悼式

[illegible]

選任会の金野珠会長が、
 事故から六十一年の歳
 が流れた。慰霊碑がな
 ち三十七人が朝鮮半島
 は現在も海底に眠ったま
 のまを続け、百八十
 人から強制連行された労働
 者だったといわれ、遺体

「さうの通り云々」云々
 碑の建立に力を貸し
 「はし」をあいつ。
 遠藤美郎の梅田和私等



「代表は」「選挙も高
選は「できる」とは協
多惜しまない」と答え

た犠牲者の

社会は、民生漸摩近く
 経済を顧っているが、
 地所有者との買収、庄
 園地交渉は進んでい
 る。



県庁を訪ね

という。
旧長生炭鉱の事故は一
四三年二月三日、炭盤

義士のふるまひ

特牲者のめし福初る

追悼式

碑文「朗読や南

長生殿

長生殿水没事故の61（當代表）

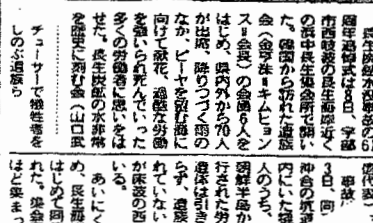
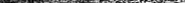
同年過御式は8日、宇都
市西枝渡の良生庵附近
の浜中良生集会所で開い
た。徳川から訪れた道隆
内下、大徳

会(金亨洙・キムヒョン
ス・会長)の金蘭り人を
はじめ、県内外から70人
のうち、

力は所詮、二、三の町
 なか、ビーヤを留む海に
 向けて献花、過酷な労働
 を強いられた人々に、いた
 らず、遠く
 れていない
 が涙流の西



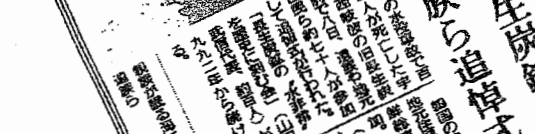
多くの労働者に思いをは
せて、長生院の水非常
を歴史に刻む会（山口武
はじめて同



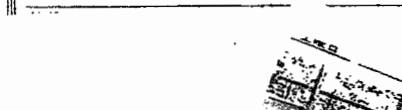
犠牲者のめい福祈る

長生炭鋤
追悼式

碑文朗読や献花

[illegible]

旧長生炭鉱前

[illegible]

長生炭鉱事故

遺族会

[illegible]

弔辞

今朝、宇部にて目が覚めました。

毎日のように朝は私達に訪れます。

朝を迎える一日の始まりも、いつも

同じ始まりです。

ところが、何故このように心が重い
のでしよう。

宇部の朝は私達にとって恥ずかしい
朝です。

ああ、海が見えてきました。

あのピーヤが私の目の前にちらつき
ます。

数多い群衆がピーヤが見える海岸の
そばに集まっています。

各々違う目的を持って集まってきた
人達であります。

日本の人、韓国の人、公務員、言論
人、学生、数多い方々が集まってい
ます。

その中でも特別喪服を着ている韓国
人と「歴史を刻む会合員」の皆様が

見えています。

まさに誠実に生きていき、人生を大
事に考えている人々です。

このような方々が、未だこの場所に
いる故、宇部は追悼の場所、なくさ
めと感謝の場所になりました。

顔をあげ、海岸を眺めます。

海辺に花をとって投げる人もいます。

その花はやむをえず、海の底に沈ん
でいます。

肉体を切り裂く痛みが、胸を刺しま
す。

お父さん！

今はお父さんの記憶すら遠のいてい
ます。

数日前、総理大臣が神社参拝をした
とのこと。

この冷たい海辺には顔を背け、二度
三度神社にだけ参拝しています。

そういう総理大臣に誠の懺悔を要求
することはおろかなことでしょう。

おとうさん！

そういう総理大臣にとって、お父さ
んは何なのでしようか？

そういう日本にとって、お父さんは
何なのでしようか？

さまざまな想いがぐるり胸を押さえ
る朝なのです。

でも今日はお父さんのために、この
ようにたくさんの人達が集まってい
ます。

少しはわびしくないことでしょう。

早く追悼を捧げるために海岸に行か
なければなりません。

行って、お父さんの耳元に届くよう
に大きな声で問うてみます。

皆様、どうしてこの場所に集まって
いますか？

皆様は何をなすことでしょうか？

二〇〇三年二月八日

遺族会副会長 楊玄

金春粉さんのお話

足元の悪い中、皆様お集まり下さいましてありがとうございます。

私は本名金春粉といいます。床波の上野原というところで生まれました。

小学校も西岐波小学校です。六年生の時に、私の父や母はまだ田舎の方で百姓をしていました。二番目の兄が百姓を嫌って、この長生炭鉱に一人で仕事に来ていたんです。私はヤナガセという所に住んでいたんです。

六年生の二月か三月か定かではないですが、寒かったことは覚えているんですが、学校放送で、「長生炭鉱の人は皆早く帰りなさい、大変な事故が起こっている」ということでした。

私は長生炭鉱ではなかったが、兄が一人働いていたので、急遽みんなと一緒にここに帰ってきたんです。私とは家が方角が反対なんです、それなら、外に立ったら、寒くてスカートがまくりあがるくらいでした。それでみたら、私の記憶では二つ目

の向こうのピーヤ（ピーヤという言葉も今回初めて知った）のちよっと向こうに海の水が大きな渦を巻いていた。

それをはっきり記憶していた。それ



を見てすぐ、兄はどうなったかと思っ
て行ってみたら、その日丁度炭鉱
だったら、一番方、二番方、三番方
があるらしいんですが、丁度、その
日は行かなくてはならなかったそう
なんです、お腹が痛くなって行け

なかった。で、結局交代してもらっ
ている。その人が犠牲になられた。
私の記憶ではそれからしばらくして、
田舎から浜中というところに家を求
めて移って、そこから学校に通っ
ていたのですが、母が、商売をして
いて、長生炭鉱の人をみんな知って
いた。学校から帰ったら母のところ
に走っていった。その時に朝鮮のおばちゃん
たちが、その日、炭鉱に入る前に
ヤマの神様を拝んで入るらしいので
すが、坑内からねずみがどんどん上
がって来ていたと。事故があるとき、
必ずねずみが移動するらしいので
すが、それを聞いてみんなが今日は、
坑内に入らない、おかしいといって
行かないといったら、柴田（キヨ
シ？）だったと思うのですが、その
人は体格のいいいつも木剣を持って
歩いていました。仕事をさぼる人を
ぼっけんで威嚇して仕事に出すよう
な人だったが、その人が、「何をばか
らしいことしているんだ！何がね
ずみだ！」と言って坑内に行かした

らしいんです。だから、この柴田を殺すっていうんで、朝鮮のおばちゃんたちが、チマに斧隠して柴田さんを探して歩いているのをこの目で見たんですよ。でもその柴田さんも自分たちが危ないから隠れていないんですよ。そういう記憶が私の小さいときの話なんです。六〇何年前の話ですが、覚えていらっしゃるんですよ。実際に中には仕事に行きたくないという人がたくさんいたと思うのですが、ネズミが上がってきた話は事実なんです。私もねずみを見た訳じゃないけど、確実にはっきりしたことはなんです。その時勤務にいらしたカワスミさんという人がが勤務課長で柴田さんという人ががその上なんです。そう言う方よく知っています。私ですけど、私の三つ下に弟がいるんですけど、弟に（弟は大阪にいます）今日参加しないかと誘いかけたんですけど、ちょっと体調が良くなって来てないんですけど、弟ははっきり覚えていました。柴田キヨシだと。線路側の向こうに家が

ありましたね。今でもその家があるかはわかりませんが、そういうことがあって、ここよりちょっと向こうが強制連行して来た人達の飯場、夕コ部屋に、窓は開いているんですけど、全部柵がしてあるんですね。そこから朝鮮語で一生懸命、何とかかんとかいつているけど、その頃は、私は日本の学校にしか行っていないから、言葉を聞き取れなかったのです。お腹がひもじいから何かくれといったのかもしれませんが、何を言ったのか記憶がありませんけど、みなが逃げないようにしてありました。そういうことが実際ありました。去年一月にべ来善氏のムゲンファ堂の落成式に行ったときに、ベ基秀キスさんが長生炭鉱のことを言われたんですよ。どこで聞かれたんですかと聞いたら、友達に聞いたと言われているから、私は実際に海に水が入るところを見たのよといったところが、島先生と知り合いになったのです。私はここで慰霊祭があることを知りませんでした。それで、初めて聞き

まして、今日は何が何でも参加したいと思ひまして、べ来善氏とまた一緒に来たんですけど、体の調子がよかったです。また来年も参加したいと思っています。昔、学校にいるときは政木でした。朝鮮名を名乗ってはいけなかったのです。私より一級下の韓国から来られているお父さんが亡くなられている方、この方お互いに顔は知らないんですけど、この方は五年生の時ですね。この方が見たときは、ビーヤの向こうから水が噴き上げていた。私が見たときは渦巻いていた。それで、私の友達に電話して聞いてみたら、自分たちも吹き上げていたから、海辺で袋に砂を詰めて、そこに投げ込むように一生懸命砂を詰めたって記憶があるといっていました。その方も、今日参加すると言っていたけど、仕事の都合で今日見えてないんです。私は簡単ですけど、このくらいしか記憶がないんです。

（テープ起こし・山内）

☆2002年度活動報告

(02追悼式・03追悼式)

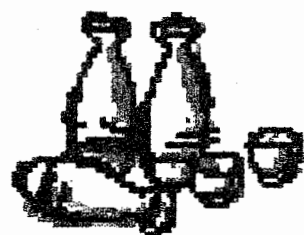
- ▼02/02/15 事務局会議
 - ・追悼式の反省
- ▼02/03/22 事務局会議
 - ・報告事項
 - ・太陽産業から寄付
 - ・会計の通帳について
 - ・パトローネに執筆
 - ・今後の活動のあり方について
- ▼02/04/26 事務局会議
 - ・宇部市との話し合い報告
 - ・その他
- *「刻む会たより」の発行について
- ▼02/05/24 事務局会議
 - ・土地の問題について
 - ・夏のフィールドワークについて
 - ・その他
- ▼02/06/07 事務局会議
 - ・土地の問題について
- ▼02/06/27 事務局会議
 - ・フィールドワークについて

- ・土地の問題について
- ・その他
- ▼02/07/26 事務局会議
 - ・フィールドワークについて最終確認
 - ・その他
- ▼02/07/28
 - 夏のフィールドワーク
- ▼02/09/22 事務局会議
 - ・フィールドワークの反省
 - ・土地の件について
 - ・宇部まつりの件について
 - ・その他
- *高礮ダム追悼式の報告
- ▼02/10/18 事務局会議
 - ・土地の件について
 - ・03年追悼式について
 - ・「刻む会たより」発行について
 - ・その他
- *10/22同和問題研究会で山口会長が分科会報告をする
- *ケグリ・オリニ会より「折り亀」が送られてきた。
- ▼02/11/29 事務局会議
 - ・追悼式について

- ・土地の問題について
- ・その他
- *飯塚のⅡ期工事完成セレモニー参加報告
- ▼02/12/26 事務局会議
 - ・追悼式について
- ▼03/01/23 事務局会議
 - ・追悼式について
- ▼03/02/27・28/09
 - 遺族招聘
 - 追悼式(2/8)



	参列者氏名	犠牲者氏名	続柄
会 長	金 亨 洙	金 四 郎	甥
副会長	楊 玄	楊 王 守	甥
	全 錫 虎	全 成 道	息子
	崔 今 碩	崔 泰 龍	娘
	崔 泰 雄	崔 陽 海	息子
	具 甲 秀	具 守 命	息子
	金 海 道	金 永 根	息子
		金 学 洙	甥



高幕ダム強制連行犠牲者 ご遺骨の祖国返還と 謝罪碑建立へ！

謝罪碑建立へ！

一九四〇年三月一五日、広島県比婆郡高野町大万木山、猿政山といった一二〇〇m級の山間を流れる神野瀬川を水源として、およそ三〇キロの山峡の一角に、(株)中国電力(当時は日本発送電(株)が、(株)奥村組に施工を請け負わせて、当時、中国地方最大といわれた「高幕ダム」の起工式が行われ、この高幕ダム建設工事は、一九四五年八月の敗戦を挟んで、一九四九年一月まで前後約十年という歳月を要して完工しました。

その間、一九四〇年の夏から秋にかけて、朝鮮半島から多数の労働者が送り込まれ、過酷な労働を強いられました。その犠牲者は二〇〇〇人とも、五〇〇〇人とも言われています。

長年、この事実を調査し、「高幕ダム」現地付近で発掘調査を行ってこられた「高幕ダム強制連行を調査する会」

会』は、長生炭鉱の追悼式にもよくご参列いただき、様々な面で相互に協力して来ましたが、このほど、発掘した遺体六体(？)の祖国返還と、日本人としての謝罪碑の建立を八月二二日(日韓併合の日)、大韓民国忠清南道天安(チヨナン)市国立墓地『望郷の丘』にて行うこととなりました。それに伴いカンパを集めているところですが、現在、目標の二〇〇万円にほど遠い五〇万円程度しか集まっていないそうです。カンパばかりお願いして申し訳ありませんが、こちらの方のカンパも是非ご協力お願いします。

また、七月六日午後一時から、高幕ダム現地にて第五回目の犠牲者追悼式を開催されるそうです。これにもご都合のつく方は、是非ご参加下さい。

カンパ優先

郵便振込口座

〇一三七〇一八一五〇一四六

加入者名

『高幕ダム強制連行を調査する会』

海に沈んだ炭鉱 フィールドワーク



日時：7月27日（日）

午後1時30分～

場所：宇部市西岐波

『西光寺』（床波駅近く）にて

フィールドワークの内容

- ①参加者全員でお話をしながら犠牲者の位牌を並べます。
- ②紙芝居「アボシは海の底」上映
- ③ビデオ上映（昭和初期の映像をみながら当時の様子を勉強します）
- ④献花（海岸でお花を供えます）

※特別展示 現在の問題として、イラク戦争関連の写真
を会場にて展示します。